

## “商い”を知る

- プログラム概要 : 限られた資源をもとに実際に商いを行う。何を売るか、企画から交渉、経理、決算に至るまですべて学生の手で行う。
- 実習先 : ロハスカフェ有明
- 実習先情報 : 本学有明キャンパス内にあるカフェ。
- 参加人数 : 10名
- 学部学科 : 政治学科、会計ガバナンス学科、経営学科、アントレプレナーシップ学科、日本文学文化学科、数理工学科
- 実習期間 : 令和4年6月4日～11月26日

はじめまして！私たちは武蔵野大学発展FS「商い」を知る」です。私たちは、武蔵野大学の学生や職員の方々に食事を提供し、利益を上げることを目標に、メニュー開発・広報活動・金銭管理など、商いに関する幅広い活動の全てを学生主体で行いました。また、ロハスカフェARIAKEの経営者である足立恵介さんと、武蔵野大学法学部政治学科の後藤新先生からも多くのアドバイスを頂いて活動していました。



感染症の影響もあって人と人の繋がりが薄くなってしまった今。大学生活って思ったより退屈だなと感じませんか？そんな“退屈”をなくしたい。何かで武蔵野生を繋ぎたい。私たちは食事を通じて繋がりを築き、退屈を少しでもなくすことを目標としました。そこで生まれたのが、お弁当ブランド #ムサ弁。そしてこのお弁当を中心にして笑顔が広がるような場所にしたいという思いから、この活動を 和MU と名付けました。



まずはお弁当の企画提案。この企画提案は3チームに分けてグループワークを行いました。それぞれターゲット層なども考えインターネットを使いつつ調査なども行いました。その結果「のり巻き弁当」「キーマカレー弁当」「チュロス」「唐揚げ」の四つを商品化することに決まりました。それぞれどうすれば味がよくなるのか・彩りがよくなるのか・買ってもらえるようなお弁当になるのかを研究し、6月4日から始まったこのお弁当企画提案は9月末に終わりました。

企画提案が終われば一息つく暇もなく販売期間に入ります。調理組と販売組とでシフトを組み、調理組は9時から販売組は10時半から活動を開始しました。初日は段取りも悪く販売は予定の30分後からになってしまい売れ行きも良くありませんでした。そこで段取りや活動開始時刻などを見直し活動の改善を行いました。その結果二回目の販売では販売開始時刻の5分前には準備を完了させることができ、商品も完売させることができました。たまたに雨で売れないこともありましたが、どうにか全ての販売を終わらせることができました。活動終了後は決算に入り無事にすべての活動を終えることができました。



この活動を通して特に感じたことは社会人との連携をとることの難しさです。何をするにもまずは許可や説明が必要。特に食品を扱う以上、衛生面にも気を遣わなければならず、ふわっとしたニュアンスだけで話すことはできませんでした。企画書に予算書など必要な書類を逐一作り提出をしなければいけません。学生の中ではラインで簡単に済むようなこともきちんと書類にしなければなりません。特に今回は1回目の活動ということで、学校とうまく連絡を取ることができず販売直前までバタバタしてしまいました。

今回は最初から最後までドタバタで現状を維持することに精一杯になってしまい、商いを深く知ることはできませんでした。が、とても良い経験となりました。この活動を通してでなくては知り合えなかった人や経験は今後も活かされていくのだと思います。

## ○まとめ

### 【ロハスカフェARIAKE 足立様より】

「商いを知る」をテーマにした時に「商いとは？」と少し考えました。

私自身お店を運営していく中で改めて考えるきっかけを頂きとてもありがたい時間でした。若さゆえ出るフレッシュなアイデアや行動力、意見のぶつかり合いや気遣いを経て試行錯誤し生み出した商品。それが売れた時の喜びや売れ残りに対する「勿体ない」感情から予測する事をおぼえ、フードロス問題を考えるきっかけになったりと。

一回目で前例がない中模索しながらバタバタでしたが得るものは多かったと感じております。理想だけではなく大事な数字の部分もしっかり考えていて素晴らしかったと思います。参加いただいた学生の方々、後藤先生、学外学修推進センターの皆さま、ありがとうございました。

### 【担当教員 後藤より】

コロナウィルスの影響もあって、今年度からようやくスタートしたプログラムです。初めての試みということで、足立様や学外学修推進センター、そして何より学生たちにも多くの負担をかけてしまいました。私自身が試行錯誤を進めるなか、学生たちはそれぞれが自分の役割をよく考え、一生懸命頑張ってくれたと思います。その結果として、多くの方たちにお弁当を商いし、そして喜んでもらったことは、学生たちにとって、とてもよい学修になったと確信しています。

最後に改めて、指導に多くの時間を割いてくださった足立様、手続等で多大なご負担をかけてしまった学外学修推進センターの皆さま、そして最後まで投げずにプログラムを完遂してくれた学生たちへお礼を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。